

兵庫県立病院薬剤部 教育研修委員会だより

第 19 刊

令和 4 年 3 月

編集発行：

兵庫県立病院薬剤部長会議

教育研修委員会

担当部長からのメッセージ

今年度は教育研修委員会が企画する研修会として初めて、専門研修及び階層別研修をオンラインで開催しました。コロナ禍のため集合型研修の実施が困難な状況ですが、県立病院薬剤師の資質向上のためにはオンラインであっても効果的な研修を継続することが重要です。そういった意味で研修を確実に実施できる体制を整えることができました。

教育研修委員会では、県立病院全体での研修のほか、各施設での研修も委員が中心となって進め、途切れなく適切な形式で効果的な研修を企画・運営していきます。

兵庫県立病院薬剤部長会議 教育研修委員会 担当部長 丹波医療センター 薬剤部長 横田聖子
淡路医療センター 薬剤部長 石田達彦

令和 3 年度教育研修委員会の取り組み

- 1 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施
全職員を対象とした「総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修」について進捗状況を確認した。
- 2 県立病院薬剤師研修の企画・運営
 - (1) 令和3年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）
令和3年6月5日（土）開催予定で企画するが、新型コロナウイルス感染症拡大のため集合研修中止
各病院で配布資料を基に研修
 - (2) 令和3年度第2回県立病院薬剤師研修（階層別研修：担当課長補佐・課長補佐・主査・主任）
令和3年11月20日（土）開催 同研修会の企画・運営
 - (3) 薬剤師専門教育研修（がん・緩和領域）
令和3年11月15日（月）開催 同研修会の企画・運営
 - (4) 薬剤師専門教育研修（感染制御領域）
令和3年11月10日（水）開催 同研修会の企画・運営
 - (5) 令和4年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）
令和4年6月4日（土）開催予定 同研修会の内容等について企画
- 3 県立病院の相互利用の活性化
 - ・複数の施設が参加する合同研修を企画・実施した。
 - ・各病院の設備、業務内容及び特徴的な取り組みなどを「相互利用のための各県立病院情報」として更新し、県立病院薬剤部ホームページ（会員用）に掲載した。
 - ・専門教育研修（がん・緩和領域、感染制御領域）を県立病院で実施した。
 - ・尼崎総合医療センターで救急・集中治療領域について、病棟薬剤業務の相互利用合同研修を実施した。
- 4 新任職員に対する研修の確実な実施及び評価
昨年度に策定した「新任職員に対する教育研修の円滑な実施にかかる実務手順書」に沿った研修の実施状況の確認と及び手順書の評価を行った。
- 5 「円滑なオンライン研修会開催のための手引き」の策定
委員会主催の研修について、オンラインを活用して円滑かつ効果的に行うための要件を検討し「円滑なオンライン研修会開催のための手引き」を策定した。
- 6 教育研修委員会だよりの発行
今年度はトピックスとして、「コロナ禍での学生実習について」を掲載し、教育研修委員会だより第19刊を発行した。

コロナ禍での学生実習について

淡路医療センター 渡邊 小百合

令和元年12月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行し始めてから1年以上が経過しましたが、現在でも収束と拡大を繰り返しているような状況です。令和3年6月下旬頃から始まった第5波と呼ばれる感染拡大により、8月20日から兵庫県にも緊急事態宣言が発出されました。

淡路医療センターでは医学教育の研修施設として、例年薬学部学生の実習を受け入れています。今年度も第3期の実習生として、8月23日から3名の学生が当センターで実習予定でしたが、緊急事態宣言下のため院内での実習が困難となりました。そこで、対策としてオンラインを用いた実習を行うこととしました。オンラインでの実習では、講義中心となってしまうため、講義内容の検討に難渋しましたが、薬局実習では学習できる機会の少ない院内製剤や抗がん剤調製、レジメン管理、輸液療法などの業務に関する講義を意識して設ける工夫を行いました。また、長時間の講義が続くことで学生の集中力が低下しないよう、午前・午後に講義時間を分け、講義毎に課題を与えて講義間の時間を活用して取り組んでもらい、毎日の実習終了後にメールで提出としました。さらに、実習期間に緊急事態宣言が解除されず、オンラインのみで終了する可能性を想定し、「病院・薬局実務実習テキスト」の症例を使用し8疾患の症例検討を早期から導入しました。症例検討の際はガイドライン等を活用し、処方理由や領域での薬剤の使い分け等を積極的に解説に取り入れるように意識しました。また、PC画面上での会話になるため、実習生の表情を読み取ることが難しく、理解度の確認を頻回に行う等工夫しました。

幸い9月30日をもって緊急事態宣言が解除となり、10月1日から院内での実習が可能となりました。その後はオンラインでの講義では取り入れられなかった調剤業務や病棟業務などの実務を中心に実習を行いました。学生からもオンラインでの実習においても有意義な実習ができたとの声を聞くことができました。

今後も、変化する状況に応じて工夫を凝らしながら薬学生の教育に貢献できるよう取り組んでいきたいと考えています。

● 実習生の声 ●

薬品の管理・取り扱い、調剤業務など実務において重要なことを細かく学ぶことができました。他にも症例検討、ガイドラインの考察といった薬物治療に関わる内容も幅広く講義していただき、知識を深めることができました。



オンライン実習では様々なテーマの講義があり、私達も一緒に考える機会を作っていただきました。スライドを用いた先生方の説明は丁寧でわかりやすく、対面での実習が始まってからも業務への取り組みやすさを実感しました。質問にも優しく応じて下さり、毎日楽しく実習に参加することができました。

心不全療養指導士取得について

姫路循環器病センター 山口 美沙

1 心不全療養指導士の受験について

心不全療養指導士の認定制度は、超高齢社会を迎えて心不全患者が急増している現状を踏まえ、心不全の発症・重症化予防のための療養指導に従事する医療専門職に必要な基本的知識および技能など資質の向上を図ることを目的として創設されました。薬剤師の主な役割は、心不全増悪による再入院の予防やQOLや生命予後の改善のために、服薬コンプライアンスの向上や病態に応じた薬物治療の提案をすることだと考えています。資格取得には、実務経験年数は問われず、e-learning受講と心不全治療に関する症例（5例）を提出し、認定試験に合格する必要があります。

2 心不全療養指導士を目指したきっかけ

私が心不全療養指導士取得を目指したのは、前勤務地の淡路医療センターで心不全チームの立ち上げがあり、病棟担当としてその心不全チームに参加したことがきっかけでした。参加した当初は、心不全について知識が乏しく、チーム内で薬剤師としてどういった役割を担えばよいのかも分かりませんでした。しかし2年間心不全チームに所属し、心不全治療に関わっていくうちに薬に関する知識や心不全の病態に関する浅い知識だけでは十分に職能を発揮できないことに気付きました。そのような状況の中、心不全療養指導士の資格が設立されることを知り、薬剤師が学ぶ機会の少ない日常におけるセルフケアや栄養管理、運動についての勉強をするためにも心不全療養指導士の資格取得を目指しました。

3 心不全療養指導士の資格を取得してから

心不全療養指導士の資格を取得後、姫路循環器病センターに異動となり、現在は心臓リハビリテーション（心リハ）のチームに所属し活動しています。主な活動としては、患者さん向けの心リハ教室の実施や外来通院する患者さんへの服薬指導、他職種とのカンファレンスへの参加です。残念ながらコロナ禍で心リハ教室が実施できず、心リハチームが介入する患者数も非常に少なくなり、現在は薬剤師として介入できることも限られています。今年度は、心不全のガイドライン改訂に伴い、心臓リハビリテーション指導士を目指している医療従事者向けに薬物療法に関する講習用の資料の改訂を行いました。来年度の新病院開院に向けてチームでの取り組み内容の見直しや電子カルテのテンプレートでの薬剤師の記入欄の作成など新たな活動も行っており、今後も心不全療養指導士としての知識を活かして活動していきたいです。



心リハカンファレンス

専門・認定薬剤師等の取得状況

(令和 4年 1月 現在)

名称・認定団体等	医療センター 尼崎総合 西宮病院	加古川 医療センター	丹波医療センター	淡路 医療センター	ひょうごの 医療センター	こども病院	がんセンター	姫路循環器病 センター	粒子線 医療センター	合計		
がん薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会					1				1		
感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会	1			1	1			1	4		
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	1	1	2			2			6		
栄養サポートチーム専門療法士	日本臨床栄養代謝学会	5	4	2	1	2	1	2	2	19		
緩和医療暫定指導薬剤師	日本緩和医療薬学会	1								1		
緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会	1					1			3		
医療薬学専門薬剤師	日本医療薬学会		1				2			3		
日病薬病院薬学認定薬剤師	日本病院薬剤師会	15	6	5	5	6	2	3	7	2	1	52
生涯研修履修認定薬剤師 (5年)	日本病院薬剤師会	3	1		1	1		2	3			11
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	2		3			1		2			8
認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	10	4	4	5	5	1	4	8	4		45
日病薬認定指導薬剤師	日本病院薬剤師会			1				1	1			3
小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	3						2				5
漢方薬・生薬認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1										1
救急認定薬剤師	日本臨床救急医学会	1			1	1						3
抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会	3		1				3	3	2		12
日本 DMAT 隊員	厚生労働省医政局長	1		2		1			1	1		6
スポーツファーマシスト	日本アンチドローピング機構		2	1	1							4
外来がん治療専門薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会					1			1			2
外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会	2	2	2				1				7
NST専門療法士実地修練	日本臨床栄養代謝学会教育施設	7	3	4	3	3	2	1	1	3		27
骨粗鬆症マネージャー	日本骨粗鬆症学会	1				2						3
禁煙指導認定薬剤師	兵庫県薬剤師学会	1		1								2
周術期管理チーム認定薬剤師	日本麻酔科学会	3	1									4
心不全療養指導士	日本循環器学会									1		1
合計		62	24	27	19	23	7	22	32	15	2	233

書籍出版・学会発表

病院名： (尼) …尼崎総合医療センター (西) …西宮病院 (加) …加古川医療センター
 (丹) …丹波医療センター (淡) …淡路医療センター (こころ) …ひょうごこころの医療センター
 (こども) …こども病院 (がん) …がんセンター (姫) …姫路循環器病センター
 (粒) …粒子線医療センター ※ …レジデント

論文発表

期間：令和2年12月～令和3年11月

●Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences

Potentially harmful excipients in neonatal medications: a multicenter nationwide observational study in Japan (尼) 永井 浩章

●American Journal of Infection Control

Increase of blood culture contamination during COVID-19 pandemic. A retrospective descriptive study. (加) 大城 里紗

●令和3年8月 日本内科学会誌 Internal Medicine

Perianal Abscess Caused by *Listeria monocytogenes*. A Case Report. (加) 藤尾 実穂

書籍等出版物（上段：出版社等／下段：タイトル・著者）

※メーカー作成の出版物（パンフレット、小冊子）を除く

期間：令和2年12月～令和3年11月

●HEART nursing 2021年3月号 メディカ出版

コロナ禍ならではの新人教育お悩み相談室 (加) 大城 里紗

●薬局 2021年2月号 南山堂

心不全の身体的・精神的苦痛に用いる薬剤の実践マネジメント オピオイド (姫) 寺崎 展幸

●HEART nursing 2021年8月号 メディカ出版

肝機能障害をもつ心不全患者さんと薬剤 (姫) 寺崎 展幸

●HEART nursing 2021年8月号 メディカ出版

腎機能障害をもつ心不全患者さんと薬剤 (粒) 團 優子

学会発表

期間：令和3年度発表分（発表予定を含む）

●第14回 日本緩和医療薬学会年会 令和3年5月13日～16日

当院緩和ケアチームにおける非がん患者への取り組み (西) 逸見 結衣

●第36回 日本環境感染学会総会・学術集会 令和3年9月19日～20日

COVID-19 パンデミック時における血液培養コンタミネーションの増加について (加) 大城 里紗

AMR 対策アクションプランに対する当院の成果指標調査 (淡) 藤井 恵太

●第31回 日本医療薬学会年会 令和3年10月9日～10日

抗がん剤調製時の閉鎖式器具の全面使用による経済効果と安全性の向上 (西) 藤原 未都菜

●第 48 回 日本小児臨床薬理学会学術集会 令和 3 年 10 月 23 日～24 日

小児専門病院集中治療室におけるバンコマイシン初期投与設計マニュアル導入による効果	(こども) 磯元 啓吾
--	-------------

●第 70 回 日本感染症学会東日本地方会学術集会

第 68 回 日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 令和 3 年 10 月 27 日～29 日

バンコマイシン TDM における AUC 評価と腎障害発現リスクの検討	(がん) 坂井 良美
-------------------------------------	------------

●第 58 回 日本糖尿病学会近畿地方会

第 57 回 日本糖尿病協会近畿地方会 令和 3 年 10 月 30 日

薬剤師による糖尿病教育入院の取り組み～「糖尿病お薬クイズ」導入後の効果～	(加) 千保 円
--------------------------------------	----------

●第 59 回 全国自治体病院学会 令和 3 年 11 月 4 日～5 日

トレーシングレポートの活用状況調査	(丹) 福永 圭佑
-------------------	-----------

●第 73 回 西日本泌尿器科学会総会 令和 3 年 11 月 4 日～6 日

アラグリオ顆粒剤分包の適正使用に向けた多職種での取り組み	(加) 藤尾 実穂
------------------------------	-----------

●第 91 回 日本感染症学会西日本地方会学術集会

第 64 回 日本感染症学会中日本地方会学術集会

第 69 回 日本化学療法学会西日本支部総会 令和 3 年 11 月 5 日～7 日

ニューモシスチス肺炎予防における ST 合剤投与に関する後方視的調査について	(西) 横山 文香
兵庫県立西宮病院におけるバンコマイシン (VCM) 血中濃度の低値と関連する患者因子の探索	(西) 田中 智啓
COVID-19 患者へのレムデシビル投与の安全性の評価	(丹) 福山 裕季子
小児血液腫瘍患者における連鎖球菌感染症について	(こども) 多々見 俊輔
当院における 2 種のバンコマイシン TDM 解析ソフトの予測値の比較検討	(姫) 沖元 秀都

●第 11 回 日本薬剤師レジデントフォーラム 令和 3 年 11 月 6 日

テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム服用に伴い眼科的介入が行われた症例の調査	(尼) ※橋本 達哉
小児 ALL 治療におけるビクリスチン投与中に便秘を発症した症例の検討	(尼) ※和田 隼斗

●第 58 回 日本小児アレルギー学会学術大会 令和 3 年 11 月 13 日～14 日

薬剤師によるアドレナリン自己注射 (エピペン®) 薬剤指導の有用性	(こども) 石原 奈央子
-----------------------------------	--------------

●第 43 回 日本病院薬剤師会近畿学術大会 令和 4 年 1 月 29 日～1 月 30 日

カシリビマブ/イムデビマブの使用症例報告	(尼) 青井 直樹
当センターにおける抗菌薬適正使用支援チームの活動と各種指標の調査	(尼) 西海 一生
小児科系病棟での抗菌薬使用量調査	(尼) 本上 ほなみ
当院における医療用麻薬の自己管理の現状と今後の展望	(尼) 吉田 友梨
尼崎総合医療センターにおける退院時薬剤情報連携加算算定の現状	(尼) 吉見 真太郎
大腿骨近位部骨折再骨折予防サポートサービスによる治療効果向上への貢献について	(西) ※岩城 慎平
がん化学療法連携充実加算算定への取り組み	(加) 大谷 祐子
高齢者における利尿薬併用がアピキサバンの出血イベントに与える影響	(丹) 大垣 望
院外処方箋における疑義照会手順の簡素化プロトコル導入と効果	(丹) 梅谷 祥弘
ワルファリンとスルバクタム・アンピシリンの薬剤相互作用に関する検討	(丹) 三木 萌花
タゾバクタム/ピペラシリン投与患者における血清カリウム値の調査	(丹) 吉田 紗季
免疫チェックポイント阻害薬使用患者の HbA1c 変動調査	(丹) ※植村 有加里
ポリファーマシー対策に向けた今後の課題	(淡) 谷畑 文彩
エルデカルシトール服用患者における血清 Ca 値の測定状況調査	(淡) ※坂田 采弥香
当院におけるクロザリル®療法に対する薬剤師の役割	(こども) 田畑 佳祐
小児薬用量に関する情報収集方法の検討	(こども) 松谷 春花
疑義照会事例実態調査に基づく注射薬処方単位間違い対策の検討	(こども) 山田 怜奈
兵庫県立がんセンターにおけるニラパリブの使用実態と有害事象の発現状況調査	(がん) 三柳 心路

当院におけるトラスツズマブ デルクステカン投与時の制吐療法調査	(がん) ※大久保 友貴
心不全パンデミック時代の心不全チーム医療における薬剤師の役割について	(姫) 寺崎 展幸
ST 上昇型心筋梗塞症例に対するスタチンを用いた脂質低下療法導入後の LDL C 値の推移	(姫) 谷垣 雄都

●第 27 回 日本災害医学会総会・学術集会 令和 4 年 3 月 3 日～5 日

COVID-19 対応拠点病院における全職員を対象としたメンタルヘルス調査	(加) 大城 里紗
兵庫県災害医療における、ロジスティクス構築に向けた加古川保健所での活動報告	(加) 大城 里紗

●第 86 回 日本循環器学会学術集会 (JCS2022) 令和 4 年 3 月 11 日～13 日

当院における慢性心不全患者に対するサクビトリアルサルタン使用状況について	(姫) 田原 由貴
慢性心不全症例へのイバブラジン導入における循環器指標の変化と問題点	(姫) 東山 未来

●日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022 [JASPO2022] 令和 4 年 3 月 12 日～13 日

兵庫県立西宮病院におけるがん化学療法連携充実加算の取り組み	(西) 伊勢原 祐子
2 週毎化学療法レジメンに対するペグフィルグラステム (PEG-G) 投与による血液毒性の検討	(西) 坂本 有里恵
irAE に関する薬薬連携の取組みについて	(淡) 大田 晴香
小児がん患者におけるシスプラチンの腎毒性の発現状況について	(こども) 研 真梨子

令和 3 年度 県立病院薬剤師研修報告

全体研修 (全職員対象): 令和 3 年 6 月

各施設

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により集合研修は中止となり、研修内容を縮小し、各施設にて研修資料を用いて実施した。

●薬剤部長会議について

薬剤部長会議では、薬剤管理指導・病棟業務の質の向上への取り組み、後発医薬品の使用推進、大学訪問・就職説明会での人材確保、以下の委員会の企画検討・最終決定を行っている。

業務標準化推進委員会は、病棟業務の円滑な標準化・統一化にかかる実務手順書、地域医療連携における薬剤師業務指針を作成・活用し、薬剤師業務の質の向上に取り組んでいる。

教育研修委員会は、教育育成に関する指針に基づく研修の実施、各研修 (全体研修、階層別研修、がん・緩和・感染領域の専門教育研修) の企画・運営、県立病院間の相互利用 (各病院の特色を活かした研修等) の活性化を図り薬剤師の質の向上に取り組んでいる。

リスク管理委員会は、事故及びヒヤリ・ハット事例集計及び防止対策の検討、リスクマネジメント教育の充実、計数調剤鑑査システムの機能向上の推進に取り組んでいる。

(粒子線医療センター 香田 小百合 記)



階層別研修（主任・主査・課長補佐対象）

：令和3年 11月 20日（土）

Web 研修

● 支援型コーチングの基本と考え方



兵庫県立大学大学院社会科学部教授 澤田 正

ティーチングとは自分のために人に教える、自分本位のコミュニケーションであるが、コーチングは相手に質問し、傾聴することで相手の答えを引き出す相手本位のコミュニケーションである。コーチングを行う際に自分は支援者に徹し、相手の未来の姿、目的を引き出していく必要がある。目的が一致すればコーチングは行いやすくなるが、双方の目的が一致していない場合にはコーチングは難しくなる。その場合は相手に目的をリクエストし、メリットを伝えることで目的をすり合わせていくことが重要である。ゴールのリクエストを相手に受け入れてもらうためには普段のコミュニケーションが大切であることを学んだ。

（こども病院 門倉 史枝 記）

● 電子カルテや調剤システムのリプレースにおいて薬剤師が考えておくべきこと

京都第二赤十字病院 薬剤部／医療情報室 岡崎 孝侍

京都第二赤十字病院のシステム化の取り組みと、リプレースで考慮すべき点を学んだ。医薬品の安全使用のため、情報システムの管理等必要な項目は、業務手順書を定める。リプレースでは、仕様書作成、ベンダー選定等を検討し、院内運用の整備、移行の準備を行い、稼働時には想定外の不具合に対応する必要がある。医薬品情報は、利用者個々が探しに行くのではなく、こちらから必要なタイミングで提供する。医薬品DBは情報量、即時性、コスト、継続性を考慮する。システム更新時には機能を見直し、新機能は必要性和重要度・対応力を考えて取り入れる。システムのリプレースの際にはこれらを念頭に置き、取り組んでいくことが重要である。



（加古川医療センター 村田和歌子 記）

● チームマネジメントに求められる部下のモチベーション向上

株式会社フェアアンドイノベーション 永瀬 隆之



本講義は自分自身と部下のモチベーションを高め、より仕事の成果を高めることを目的とし、モチベーションの理論による体系的な理解と、やる気のもとであるモチベータについて自己診断を行った。また講義の終盤では、育成すべきモチベータを踏まえ、部下との模擬面談のロールプレイングを実施した。モチベーションを高める手段は、欲求に伴うものと過程に注目した動機づけの2種類があり、本講義ではマズローの欲求5段階理論を元に行われた。各モチベータの意味・特徴・留意点を理解することで、個人にあったモチベーション向上プランを立てることが可能となり、仕事に対する内発的な動機付けを高めやすくなる。

(西宮病院 坂本有里恵 記)



薬剤師専門研修 (感染制御領域)

: 令和3年 11月 10日 (水) 丹波医療センター (Web研修)

参加 10名



本研修では、①医師による講義「敗血症の診断と治療」、②検査技師による講義「微生物検査について」、③薬剤師による講義「チームで行う感染症治療の実施」、「資格取得に必要な知識」が実施された。

①では、敗血症について quickSOFA による診断や免疫低下患者等であれば短期間の抗菌薬治療が可能であること等、理解を深めることができた。また、検出菌が起炎菌かの見極めやスペクトラム、臓器移行性、MIC を考慮した抗菌薬の選択が重要であることを学んだ。

②では、グラム染色が初期治療、治療効果判定に有用であることやグラム染色における代表的な細菌の画像所見について学んだ。

③では、糖尿病性ケトアシドーシス (DKA) と敗血症を併発した症例で、DKA であれば感染症を疑い、感染部位、起炎菌を想定した適正な抗菌薬の選択を行うことが重要であることを学んだ。また、資格取得のための必要事項・流れ、症例記載時の注意点等について学び、意識を高めることができた。

(ひょうごこころの医療センター 田畑 佳祐 記)



薬剤師専門研修 (がん・緩和領域)

：令和3年 11月 15日 (月)

尼崎総合医療センター (Web 研修)

参加 9名

本研修では ZOOM を使用したオンライン研修で、大腸がんの治療について、①医師による講義 (大腸がんの最新治療)、②薬剤師による講義・症例検討 (大腸がんの薬物療法における副作用マネージメント、大腸がん患者の症状緩和) が実施された。

①では、大腸がんの薬物療法について、腫瘍占拠部位 (右側、左側) による違い等大腸癌治療ガイドライン 2019 年版の変更点を中心に講義があった。

②では、大腸がんの代表的なレジメンと副作用マネージメントについての講義と、消化管閉塞での症状の評価とアプローチについて講義があった。症例検討では、抗がん剤の副作用評価や医師への提案事項、がん性疼痛の評価とオピオイドの処方提案等、受講者がオンライン上でグループに分かれて、活発にディスカッションを行い発表することで、より実践的な学習ができた。

また、外来がん治療認定薬剤師と緩和薬物療法認定薬剤師の筆記試験や症例報告作成の具体的な解説があり、資格取得へ向けての意欲向上に繋げることができた。



(尼崎総合医療センター 河原 香織 記)

令和3年度 県立病院相互利用の状況

実施日	内容	実施施設	参加人数
7月14日	入退院支援センター	西宮病院	1名
7月27日	腎臓病教室	西宮病院	1名
7月29日	外来化学療法患者への服薬指導	西宮病院	1名
8月3, 4, 16日	集中治療室での業務	尼崎総合医療センター	5名
8月4日	レジメン管理業務	がんセンター	3名
8月4日	抗がん剤調製業務	がんセンター	3名
8月4, 11日	外来化学療法患者への服薬指導、外来麻薬指導	がんセンター	5名
8月5日	病棟薬剤業務 (精神疾患領域)	こころの医療センター	1名
8月5日	抗菌薬適性使用支援チーム (AST)	尼崎総合医療センター	3名
8月17日, 12月7日	病棟薬剤業務 (救急・集中治療領域)	尼崎総合医療センター	3名
8月24日	緩和ケアチームラウンド	西宮病院	1名
11月9日	認知症・せん妄ラウンド	尼崎総合医療センター	1名
11月17日	Patient Flow Management (PFM)	尼崎総合医療センター	4名

※県立病院相互利用とは：県立10病院における新規業務、システム、特徴的な取り組み (チーム医療、病院独自の取り組み等) を病院間で情報共有することにより、人的・物的資源の有効活用を図ると共に、県立病院全体の業務の質向上を図る取り組み

兵庫県立病院レジデント制度

受入実績

(令和 3 年 9 月現在)

令和 3 年度受入人数：12 名（1 年目 6 名、2 年目 6 名）

令和 2 年度レジデントのうち兵庫県職員合格者：3 名

《参考》レジデント受入年次推移

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
19 名	18 名	19 名	19 名	12 名

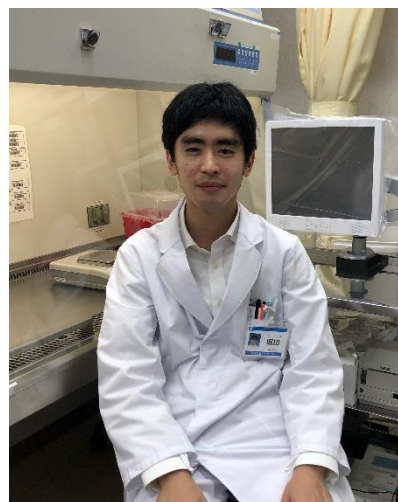
レジデントの声

がんセンター レジデント（1 年目） 堀田 拓海

兵庫県立がんセンター薬剤師レジデント 1 年目の堀田拓海です。

現在の主な業務として内服・注射薬の調剤、持参薬鑑別、抗がん剤のミキシングや服薬指導を行っています。調剤業務ひとつとっても化学療法のスケジュール、臨床検査値の見方や支持療法など学べることが多いと実感しています。また、前述の業務に加えて多くの講義があり、例えばリスクマネジメントや TDM など業務に関連する内容を薬剤師の先生方がオムニバス形式で教えてくれます。入職後 3 か月目からは消化器内科の病棟を担当し、服薬指導などの病棟業務を行っています。服薬指導を行うにあたり、抗癌剤の投与量や投与時間が適切かの確認や、その他の前投薬などが適切に処方されているかを確認する必要があります。内視鏡による検査、治療であれば抗凝固薬や抗血小板薬の服用状況の確認は欠かせません。そして種々の事項を確認した後実際に服薬指導を行います。検査や化学療法目的の入院をされる患者さんのもとへ伺うのですが、治療への不安などをお話ししてくださる患者さんが多いです。自分はどれだけ応えられているのかと反省の日々ではありますが、勉強だけでは得られない貴重な経験ができていると確信しています。

日々勉強になることばかりで未熟さを感じることも多いですが、一歩ずつ成長すべく努力しています。



編集後記 COVID-19 感染拡大の影響を受けて、これまで当たり前に行っていたことができない中、オンライン研修の実施など、今の環境の中でできることを見つけて進めてきました。このように変遷していく状況においても、最前線で薬剤師として専門性を活かして活躍できるよう、教育研修委員会では各取り組みを通して職員のレベルアップに貢献していきたいと思えます。

令和 3 年度教育研修委員会



担当部長	横田聖子	石田達彦
委員長	柴田直子	
副委員長	河原香織	
委員	坂本有里恵	田中拓可
	渡邊小百合	田中将太
	南野希	研真梨子
	國東佑美	佐伯剛史
	香田小百合	